

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和3年度 第1回社会教育委員会議定例会				
事務局 (担当課)		生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)				
開催日時		令和3年5月19日(水) 午後6時~午後7時50分				
開催場所		相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室				
出席者	委員	12人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	8人(生涯学習部長、他7人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 議題 今後の調査研究について 3 報告 令和3年度神奈川県社会教育委員連絡協議会第1回理事会 について 4 その他				

議 事 の 要 旨

1 生涯学習部長あいさつ

生涯学習課長の進行により、開会のあいさつを行った後、生涯学習部長から新年度着任のあいさつを行った。

2 古矢議長あいさつ

古矢議長があいさつを行った。

3 議題

古矢議長の進行により議事が進められた。

(古矢議長) 前回定例会では、議論を進めていく方向性として「公民館を核とした地域づくりの新たな展開」を念頭に、調査研究テーマを絞っていこうということで皆様と認識を共有した。

それを踏まえて本日の議論を進めていくが、その前に配布資料1、2について事務局から話を伺いたい。

(事務局) 資料に基づき説明を行った。

(古矢議長) 議論を能率的に進めるため、小グループに分かれて討議を進めていただきたい。

資料「相模原の公民館について」に記載されている「特徴」「伸ばしたい点」「改善したい点」「期待すること」「コロナ禍の影響と乗り越える動き」の5つの項目について、日頃思っていることを意見交換していただきたい。また、どんな報告書を作っていたら良いかについても意見交換していただき、後程、班ごとに発表してもらいたい。

(秦野委員) 「伸ばしたい点」と「期待すること」を分けて話し難い場合は、引くくめても良いか。

(古矢議長) 構いません。

【グループ討議】

(古矢議長) お時間になりましたので、い組、ろ組、は組の順で各組発表をお願いします。

(秦野委員) い組では、後半のテーマにもなる、どんな報告書にしたいのかによって意見の方向が変わってくるため、どのようなイメージを持っているかをグループで共有した。前期では、社会教育のあるべき姿について報告書が出されているため、今期は新たに公民館に配属された職員でも、事業の運営・企画等の手助けになるよう、事例をいくつか取り上げ、全公民館で取り上げたいテーマをいくつか提案し、現場職員のヒ

アリングも行い、その意見を取り入れながら具体例を提案できたらよいと考える。

例えば、全体で取り上げたいテーマとしては、若林委員が関わっている発達に特徴のあるこどものサポート講座などは、現在多くの受講生が学び、今度は受講生が周囲の人に伝えていけるようになることを目指しており、その伝える方法としては、オンラインや、地域ブロックごとの開催、公民館でアドバイザーとしての活躍など、様々な方法が考えられる。大橋委員の女性学級では、今学んでいる方々がサークルを立ち上げることが非常に少なくなっていることに対し、サークル化する際に公民館が手伝えることで、その方々の活躍に繋げていくことをテーマとして渡せたら良いと考える。

コロナ禍の影響と乗り越える動きとしては、オンラインを使って良かった点は、これまで家庭教育講座などは体育館に参加者200人程を集めて行っていたが、オンラインでは2000人が配信を視聴するなど、なかなか外出できない人にも配信でき、多くの人に聞いていただくチャンスができたということである。しかし、生の声が聞きたい人や、リアルでこそ生きる内容もあるため、オンラインとリアル、両方できると良い。

また、公民館とボランティアが、保育室の運営等について話し合い、運営方法を決めていく場合も、オンラインを使えばやりやすくなるのではないか。

他にも具体的な様々な意見が出たが、それは今後どういう方向に報告書がいくかによって、伝えたいと思っている。

(小中担当課長)ろ組では、例えば大野台地区は町が新しく、神社仏閣がなく、昔は桑畑ばかりだったが、大野台公民館での行事をやったり、地区内各所で盆踊りをやったりして、何も無いところから地域の歴史をつくってきた。何も無いところから歴史をつくってきたことが、本市公民館の特徴ではないか。

しかし、当時地域の歴史をつくってきた世代の年代が上がり、昔のようなまちづくり、地域づくりのイメージは現在ほとんどなく、オリジナルのアイデアがなかなか出てこない。また、他市の情報もわからず、情報の交流がないため、オリジナルのアイデアが出てこないのではないかという意見も出た。

もう一つ、昔と違う点は、地域の人づくりの難しさである。昔は飲み会など、交流をするにも共通の認識があったが、昨今の若者はコロナ禍等により飲み会は廃れ、人との交流や人づくりの中で

も、価値観の多様性でなかなか地域づくりが難しいのではないかと。その中で、学校と地域が連携することで地域の子ども達を育てていくという活動には、公民館のポテンシャルを活かしていくと良いのではないかと意見があった。

その他の意見では、職員の専門性というところでは館長代理にもっと頑張ってもらいたいとか、公民館が何を行っているかわからないため、どのような会計で、どのような職員が何を行っているのか、もっと情報を発信した方が良いという意見もあった。

(長沢委員) は組では、私は星が丘の方で改修工事のことだったり、運営協議会に入っていたため、職員の大変さや、館長代理が一人で全部やらなければならないというのを傍で見てきた。職員の負担が改善されなければ、どんな良い提言をしたところで現場はできないのではないかと強く思ったため、改善したい点としては、人とスキルである。

地域には様々なスキルを持った人や、公民館に関心を持っている人がいるが、その方々の中には公民館に入り難いと感じている人、関わり人がわからない方もいる。私個人の意見だが、自治会に若い人が入りたがらない。こどもの頃は祭などで地域に関わっているが、中学生になって忙しくなり、高校生や大学生になって地域を離れて、大人になって地元に戻り自治会に入れと言われても、親が関わっていないとかなかなかきっかけが掴めない。しかし、こどもセンターや公民館等、入りやすいところがあれば、戻ってきて関わりたいと思うようになるのではないかと。公民館等が若者のスキルを活かせる場所となると良いのではないかと。

昨年度に社会教育士という資格を取られた人がいるという話を聞いたが、地域のコーディネーターである社会教育士が関わることで企画しやすくなったり、館長代理等のフォローしてもらえると良いと思う。今後、公民館に社会教育士の資格を持った人材が増えることを期待する。

公民館には、運営協議会など様々な委員がいるが、公募委員の募集書類が一般の人には分かり難い。もう少しわかりやすく書いた方が、今よりも地域の人材が集まるのではないかと。

(古矢議長) 各組の発表に対し、質疑等はあるか。

(大橋委員) 公募委員の話が出たが、地元の公民館では、直接館長代理から声を掛けられ公募委員を打診されるのが実情である。

(古矢議長) 続いて、2つ目のテーマ「どんな報告書であってほしいか、どんな報告書にしたいか」について皆様の意見を伺いたい。

- (大橋委員) 長年社会教育委員を務め、何回か提案書を作ってきた。前期の渡辺委員も言っていたが、素晴らしい報告書を作っても、俗に言う絵に描いた餅にならないように、全ての提言をできずとも、今期で決めたテーマを一先ず各公民館でモデル的に取り組んでみてはどうか。実際にやってみることで経験値が付き、改善点も見えてくると思う。
- (秦野委員) 以前、他市の公民館職員であったが、公民館に配属されたばかりのときに、こういうテーマでやりなさいと言われても、どうすれば良いのかわからず前年踏襲していた経験がある。職員が多ければ様々なやり方を教えてもらえるが、現状職員が少ないためそれができない。難しい論文ではなく、事業テーマに対するやり方や、市民が参加したくなるやり方の手掛かり、普段利用しない人に公民館は楽しいところだと、参加してみたいと思ってもらえる工夫点を提案するなど、少し具体的なものを、数を絞って提案できたら良い。
- (安西委員) 議論の中で疑問に思ったことだが、館長代理同士の交流会はあるか。
- (事務局) 全館長代理が集まる会議が2ヶ月に1回開催されるが、交流会はない。
- (安西委員) 館長代理が集まる会議で、自分たちが今抱えてる問題や、取組事例について話し合えれば、周囲に相談する人がいなくとも、やりやすくなると思う。
- (中里委員) 大人同士の横の繋がりと、具体的なことをやっていくことが大事だと思う。先程の意見と重なるが、横の繋がりとということであれば、館長代理同士の交流がないと聞いたが、例えば社会教育士等をうまく活用して連携の潤滑油になってもらうやり方とか、館長、館長代理同士の交流を深めるような場があっても良いのではないか。もう一つ具体例という話でいうと、例えば資料2「公民館あり方検討会報告書」は、とても良くまとまっている報告書だが、このような資料は何年も同じようなことが書かれていて、あまり変わっていないのではないか。変えるためには何か具体的なことを報告書に盛り込むことで、スピード感を持って一歩前に行けるような報告書であつたら良いと思う。
- (大野委員) 市役所の情報や市長の方針等を、公民館に流してほしい。例えば、市長や区長が交代したとき、公民館をどのように考えているかなど、リアルな情報を教えてほしい。
- (小林委員) 先程の意見と重なる部分があるが、コミュニティづくりと相まって、市内では既に、コミュニティスクール構想に向けた取組が動き出している。市民の方々が、公民館活動や地域コミュニティづくり、地域による学校支援活動を展開する際に、何を、どのようにして、といった具体的なアイデアが生まれる素地作りが求められていると思う。

公民館が核となり、活動のきっかけや手法、その成果や課題等々を整理したものをベースに精査し、プロジェクト別にモデルになるような参考事例を提示できれば、更なる新たな活動のヒントや気づきに繋がると考える。

それには、公民館職員をはじめ、社会教育士、指導主事、教員、地域住民、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、企業、NPO等々といった多様な市民の方々の協働・連携の場づくりが欠かせないと思う。

（金子委員）先程他の委員が言ったように、館長代理によってやり方が随分変わり大変な思いをするという意見もグループ内で出たため、その辺の連携を取った上で、館長代理が交代する際はしっかり引継を行えば利用者がより公民館を利用しやすくなるのではないかと。

（小泉委員）先程の大野台の意見と重複するが、資料裏面の「人を育てる」いわゆる人材育成の部分と、「体制の強化」は、書かれている内容は納得できるものであるため、それができるための体制づくりをどうしていくか、社会教育士も含めて整理が必要と思う。

（藤嶋委員）公民館というのは人が集まる場所であるが、十分なスペースがあるのか、周辺住民が一斉に来たらどうするのか。

もう一つは、公民館を利用し難いと感じている人、公民館がいらなと感じている人もいれば、日頃から公民館を利用している人もいる中で、ターゲットをどこに絞り、どういう活動をして、どういう人達を集めれば良いのか。全ての人のことを考えて取り組むことが、果たして全ての人々の幸せに繋がるのだろうか。一部の人だけに焦点をあてて取り組むのか、全ての人のことを考えて結果的に不十分な取り組みになってしまうと良いのか。公民館長を務めているが、何を起点として公民館活動を行って良いものか。

地域の拠点としては、繋がりをつくる、小さな活動、小さな声が集まる公民館が良いのではないかと。私が館長を務める公民館では、利用者と職員が「おはなし会があると良いね」と立ち話したことから、職員が少人数のおはなし会を企画し、その利用者がコミュニケーションツールを使い参加者を募りおはなし会を開催したことがある。そういうことを大事にしていける職員がいることが大切であり、日本全国等の大きな規模ではなく、本当の一步一步の積み重ねが良いのではないかと考える。やはり人材づくりが大切であり、それから地域の人を巻き込む、そんな事が必要である。そのためには、こどもの頃に公民館は良いところだと感じてもらえれば戻ってくるのではないかと。こども

や高齢者、様々な人に声を掛けて来てもらう、そこから広げていければ良いのではないか。

地域の拠点として、やはり人づくり、どこか一つのところを拠点にではないが、突破する手掛かりとして、全公民館で取り組めるような提言ができると思う。

(長沢委員) 先程意見のあった事例収集について、学級ごとにまとめ紙が作られているため、それを活用できれば、わざわざ今から探しに行かなくても良いのではないか。

また、これからはネットワーク型公民館というのができると思う。一館では出来ないことを他の公民館と連携しながら取り組む、特に家庭教育とか広く取り組むべき事業は連携し、成人学級のように個々の地域にあわせて取り組む事業はそれぞれで行うと思う。

(若林委員) 生涯学習課主催の発達サポート講座を私も手伝っているが、やはりこどもの発達を市の皆さんに知ってもらいたい。多様性の尊重ということもあるため、一つのそういうテーマの勉強会を全公民館で統一してやってみるということもできるのではないかと思う。公民館に行って聞く方法や、行けない人は期間限定の配信を視聴する方法など、これからできるのではないかと思う。

(古矢議長) 委員の皆様から一通り意見を伺ったが、他に意見はあるか。

(大野委員) 以前から提案している公民館報について、インターネット上に掲載されている最近の公民館報を見たところ、紙面構成が横組であるのに対し、右開きで掲載されていた。通常であれば横組の場合は左開き、縦組の場合は右開きであるが。また、記事の内容は終わった催事等の報告であり、これでは人は集まらない。

(古矢議長) 次回定例会まで、しばらく期間が空き、コロナにより先が見通せないため、今日の発表内容等まとめたものを委員の皆様を送り、それに対し更に意見を加えていただき、書面等でやり取りすることを一つ提案したい。

委員から承認を得た。

4 報告

令和3年度神奈川県社会教育委員連絡協議会第1回理事会について

古矢議長が資料に基づき報告を行った。

5 その他

事務局より、次回定例会スケジュールを説明した。

古矢議長のあいさつにより、会議を終了した。

以上

令和3年度 第1回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小泉 勇	相模原市立小学校長会		出席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
4	藤嶋 直司	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
7	若林 由美	一般社団法人星と虹色なこどもたち		出席
8	石川 利江	学識経験者(桜美林大学教授)		欠席
9	秦野 玲子	学識経験者(RE Learning代表)		出席
10	古矢 鉄矢	学識経験者(学校法人北里研究所参与)	議長	出席
11	小林 政美	学識経験者(特定非営利活動法人男女共同参画 さがみはら 副代表理事)		出席
12	大野 俊文	公募		出席
13	長沢 亜希子	公募		出席
14	三井 泰平	特定非営利活動法人ゆどうふ		欠席